

高齢者の歌はどれほど知られているか？

～歌に関するアンケート調査より～

渡 辺 嘉 久

I はじめに

十数年前から学生やボランティア達とともに、デイサービスセンター・軽費老人ホームなどの高齢者福祉施設で、アコーディオンを使い「歌の会」を続けてきている。歌を通して、高齢者と学生とのかかわりや高齢者相互のかかわりを促進することをねらいとしてきた。

そこでの経験は筆者に多くの示唆を与えてくれた。例えば、1927（昭和2）年に発表された三木露風作詞、山田耕筰作曲の【赤とんぼ】は、今日でも人々に親しまれている童謡である。特別養護老人ホームで【赤とんぼ】を歌っていると、一番に『負われて見たのはいつの日か』という歌詞が出てくるが、若い人たちは「トンボの大群に追いかけられる」と思っていることが多い。「負われる」の意味が理解できていない。まして三番の歌詞の『十五で姐やは嫁に行き』の「姐や」がわからない。

そこで、高齢者に向かって「ネエヤって何ですか？」と質問することにより、いろいろな話題を引き出すことができる。このことは、高齢者に「若い者に教える」ことができたという満足感が自信につながるものが、経験的に実証されている。また、この話をじっと聞いていた認知症の高齢者が、「山へ桑の実を摘みに行かされたなぁ」と呟いて、みんなを驚かせたこともある。

歌は、その時々時代の出来事や文化を反映しており、歌詞やメロディーは世代を超えて歌い継がれていく。特に、高齢者にとって歌は懐かしい思い出につながるものであり、たとえ歌わなくても耳を傾け、知らず知らずのうちに指先や足先で拍子をとっている認知症高齢者も多い。このような高齢者が、たとえ認知症であろうとも、歌を通して『かつて光り輝いていた時代』に思いをはせることによって活気づかせることにつながる。このことは、日々の生活を、明るく・楽しく・生き生きとしたものにし、ひいては介護保険におけるコスト軽減につながると考えられる。¹⁾

ところが、高齢者が好む歌、昔から歌われてきた歌を、学生たちはもちろん、施設のスタッフでも若い人たちの中では、歌そのものを知らない人が増えてきていることを実感せずにはおられない。事実、高齢者福祉施設では音楽のプログラムが少なくなりつつある。行なっていてもカラオケに頼っているということが増えてきている。その理由をたずねると「お年寄りが好きな歌がわからない」「なかなか歌ってくれない」などという答えが多い。引き出し方の問題であるのだが、ある程度歌の意味を知らない高齢者の思い出などを引き出すことが困難となる。

高齢者の歌はどれほど知られているか？

この経験から、高齢者が歌える歌や親しまれている歌を、どの程度若いスタッフや学生たちが知っているのかについて、アンケート調査を開始し、現在も継続して行なっている。

本稿は、このアンケート調査で得られたこれまでのデータをまとめ、性別や年代によって得点はどう異なってくるのか、高齢者福祉の関係者とそれ以外の者とでは差違が認められるか。さらに、高齢者にとって親しみやすい歌がどの程度学生やスタッフに知られているのか（認知度）について分析と考察を試みるものである。

Ⅱ 調査の概要

1 調査時期・調査対象・調査方法

本調査を開始した2000年1月から2007年9月までの間に、約1600人に対してアンケート調査を実施してきたが、質問項目が130項目と多く、空欄がある解答用紙も少なくない。そこで、1カ所でも空欄のある回答は無効回答として扱い、最終的に有効回答1152を得ることができた。なお年齢を統一するため、2007年9月末日現在に換算している。

調査に当たって、アンケート用紙作成の資料として、呉竹英一編：「歌の宝石箱 ～手あそび歌付～」：ドレミ出版社：1999を使用した。本書は、認知症高齢者に対する音楽療法に、長年にわたって携わってきた呉竹英一氏らが、高齢者から好まれている歌、高齢者にとって歌いやすい歌などを約3000人のアンケート調査により、130曲を選曲し掲載している。ジャンルは唱歌、童謡、歌謡曲、軍歌にわたっている。また、高齢者にとって歌いやすい音域（低い“ラ”から高い“ミ”まで）に移調してある。さらに、歌詞が大きなゴシック体で印刷されており、高齢者に読みやすく工夫され、高齢者には親しみやすい歌集として編集されている。²⁾

調査の実施に際しては、高齢者福祉施設の職員対象の研修、ホームヘルパー養成講習会、介護福祉士養成施設などにおける授業などにおいて、アンケート用紙（資料①）を配布し、130曲それぞれについて「歌える（歌詞を見ながら・伴奏があれば歌えるでも可）」歌には“○”印、「知っている程度（歌えないが聞いたことはある・題名だけは知っている程度でも可）」歌には“△”印、「知らない（全く知らない）」歌には“×”印をつけてもらった。

また、タイトルだけではわからないこともあるため、すべての歌に対する歌い出しが書かれてある資料（資料②）を配付し、さらにアコーディオンで伴奏したり歌ったりして、また対象者相互で相談してもよいこととし、忘れている場合もできるだけ思い出せるように配慮した。

ただし、学生の家族などにアンケートを依頼した場合は、集合して行なっていないため、資料①②を学生から渡してもらい、相談しながら記入をしてもよいということで依頼した。

このようにして得たデータから無効票を削除し、1152のデータを集計した。調査対象者の年齢別人数および属性別人数は＜表1＞および＜表2＞の通りである。

高齢者の歌はどれほど知られているか？

<表 1> 調査対象者の年齢別人数

年齢区分	性別	人数	年齢区分	性別	人数
20歳以下	男	12	50歳以下	男	9
	女	30		女	95
	計	42		計	104
25歳以下	男	36	55歳以下	男	12
	女	114		女	90
	計	150		計	102
30歳以下	男	79	60歳以下	男	21
	女	152		女	95
	計	231		計	116
35歳以下	男	57	65歳以下	男	8
	女	65		女	36
	計	122		計	44
40歳以下	男	33	70歳以下	男	4
	女	71		女	20
	計	104		計	24
45歳以下	男	18	71歳以上	男	11
	女	73		女	11
	計	91		計	22
合 計				男	300
				女	852
				計	1152

<表 2> 調査対象者の属性別人数

属 性	性別	人数
A 特別養護老人ホーム職員 デイサービスセンター職員	男	21
	女	51
	計	72
B 介護福祉士養成施設学生 ホームヘルパー 2 級養成講習受講者	男	164
	女	559
	計	723
C その他 (老人大学受講者・介護系以外の学生・学生の家族など)	男	115
	女	242
	計	357
合 計	男	300
	女	852
	計	1152

2 集計方法

1152人の得点については、130曲それぞれの歌について“○”としたものに2点、“△”としたものには1点、“×”は0点として入力し、130曲に対する各人の合計得点を算出し、すべて“○”の場合の素点260点を100点に換算した。すなわち、得点が100点満点の人は130曲についてすべて歌えるということになる。

また、歌に対する認知度については、130曲それぞれの歌ごとに1152人分の素点を算出し、歌ごとにその合計を1152で除した。すなわち、全員が「歌える」と回答した場合は数値が2となり、これに50を乗じて100%として換算した。この場合の100%とはすべての人が歌えるということになる。

3 集計結果

年齢の得点および歌の認知度についての集計結果はそれぞれ＜表3＞＜表4＞の通りである。年齢を20歳以下から71歳以上まで、5歳ごとに区分し集計した。調査対象者の最少年齢は7歳（女）で得点は16.5であった。また、最高年齢は90歳（男）で得点は36.5であった。いずれも「その他」である。また、全対象者中、最低得点は19歳男性の8.5であり、「その他」のジャンルに入っている。一方、最高得点は100（満点）であり、61歳から77歳までの6人で、いずれも女性で、施設職員3名、ホームヘルパー受講生3名であった。

認知度が高かった歌は順に【どんぐりころころ】（発表年1921年・認知度98.7%・以下同じ）、【しゃぼん玉】（1922年・98.6%）、【赤とんぼ】（1927年・98.4%）、【上を向いて歩こう】（1961年・98.4%）、【ドレミの歌】（1965年・98.4%）、【チューリップ】（1932年・98.3%）、【お正月】（1901年・98.2%）で何れも98%以上となっている。

反対に、もっとも認知度が低かった歌は【紀元節】（1888年・10.1%）、【庭の千草】（1884年・15.2%）、【桜井の訣別】（1899年・16.1%）、【故郷の廃家】（1907年・17.0%）、【美しき天然】（1905年・19.1%）であり何れも20%未満となっている。

＜表3＞ 調査対象者の年齢層別平均得点

年齢区分	性別	人数	平均 得点	最高 得点	最低 得点	標準 偏差	年齢区分	性別	人数	平均 得点	最高 得点	最低 得点	標準 偏差	
20歳以下	男	12	33.7	70.8	8.5	16.17	50歳以下	男	9	74.1	92.3	60.4	11.15	
	女	30	39.1	82.3	16.2	13.41		女	95	76.5	99.2	23.8	13.10	
	計	42	37.5	82.3	8.5	14.27		計	104	76.3	99.2	23.8	12.91	
25歳以下	男	36	30.9	71.5	10.8	11.60	55歳以下	男	12	70.6	88.1	21.2	23.00	
	女	114	42.1	91.9	13.5	11.60		女	90	80.9	98.5	31.2	15.40	
	計	150	39.4	91.9	10.8	12.27		計	102	79.6	98.5	21.2	16.67	
30歳以下	男	79	44.6	90.8	20.8	12.85	60歳以下	男	21	71.8	98.5	22.3	23.05	
	女	152	49.8	96.9	14.2	13.83		女	95	86.4	99.2	36.2	12.87	
	計	231	48.0	96.9	14.2	13.70		計	116	83.7	99.2	22.3	16.10	
35歳以下	男	57	41.2	82.3	13.8	13.48	65歳以下	男	8	89.4	99.2	69.2	9.76	
	女	65	52.8	94.6	26.2	13.74		女	36	87.5	100.0	35.0	14.62	
	計	122	47.4	94.6	13.8	14.74		計	44	87.8	100.0	35.0	13.78	
40歳以下	男	33	51.4	91.5	18.1	15.10	70歳以下	男	4	86.7	98.5	77.3	9.58	
	女	71	62.0	95.4	24.6	15.23		女	20	91.1	100.0	65.8	10.53	
	計	104	58.6	95.4	18.1	15.92		計	24	90.4	100.0	65.8	10.31	
45歳以下	男	18	67.1	97.7	39.6	12.46	71歳以上	男	11	66.6	96.5	10.0	27.66	
	女	73	71.2	96.5	43.8	11.20		女	11	78.0	100.0	30.4	26.14	
	計	91	70.4	97.7	39.6	11.50		計	22	72.3	100.0	10.0	26.91	
							合計	男	300	50.2	99.2	8.5	21.39	
								女	852	64.8	100.0	13.5	21.56	
								計	1152	61.0	100.0	8.5	22.45	

高齢者の歌はどれほど知られているか？

<表 4> 認知度

No.	曲 名	発表年	認知度	No.	曲 名	発表年	認知度	No.	曲 名	発表年	認知度
1	青い山脈	1949	81.5	45	国境の町	1934	21.2	89	箱根八里	1901	56.7
2	青い目の人形	1921	53.8	46	湖畔の宿	1940	32.2	90	鳩	1911	92.9
3	赤い靴	1921	87.3	47	金色夜叉	1917	37.7	91	花火	1941	36.4
4	赤とんぼ	1927	98.4	48	ゴンドラの歌	1915	39.3	92	花嫁人形	1923	48.4
5	憧れのハワイ航路	1948	66.3	49	さくら	1888	91.6	93	埴生の宿	1889	28.9
6	あの子はたあれ	1946	52.8	50	桜井の訣別	1899	16.1	94	浜千鳥	1919	29.8
7	あめふり	1925	90.4	51	里の秋	1941	59.9	95	浜辺の歌	1916	51.9
8	異国の丘	1948	30.7	52	四季の歌	1972	91.1	96	バラが咲いた	1966	91.1
9	一月一日	1893	78.1	53	しゃぼん玉	1922	98.6	97	春が来た	1910	97.8
10	上を向いて歩こう	1961	98.4	54	十五夜お月さん	1920	57.1	98	春の小川	1912	91.2
11	うさぎとかめ	1901	95.9	55	酋長の娘	1925	30.8	99	春よ来い	1923	93.3
12	美しき天然	1905	19.1	56	証城寺の狸囃子	1925	81.9	100	日の丸の旗	1911	56.9
13	うみ	1941	97.8	57	知床旅情	1970	59.9	101	富士山	1910	76.7
14	浦島太郎	1911	92.9	58	白い花の咲く頃	1950	20.7	102	冬景色	1913	33.8
15	うれしいひなまつり	1936	96.7	59	人生の並木道	1937	41.4	103	冬の夜	1912	20.0
16	おさるのかごや	1939	82.9	60	すみだ川	1937	30.6	104	故郷	1914	89.3
17	お正月	1901	98.2	61	背くらべ	1937	70.2	105	星影のワルツ	1966	59.7
18	お富さん	1954	65.5	62	瀬戸の花嫁	1972	83.2	106	星の界	1910	42.1
19	おぼろ月夜	1914	78.4	63	船頭小唄	1923	39.3	107	ほたるこい	1941	89.9
20	お山の杉の子	1944	36.8	64	蘇州夜曲	1940	24.8	108	蛍	1932	24.8
21	かあさんの歌	1958	92.9	65	大黒様	1905	29.6	109	牧場の朝	1932	39.1
22	案山子	1911	44.9	66	たきび	1941	95.2	110	真白き富士の嶺	1910	23.6
23	影を慕いて	1932	33.8	67	たこのうた	1910	71.1	111	鞠と殿さま	1929	50.1
24	肩たたき	1923	90.0	68	たなばたさま	1941	93.7	112	みかんの花咲く丘	1946	83.2
25	かたつむり	1910	97.3	69	旅の夜風	1938	44.5	113	水戸黄門	1988	93.6
26	カチューシャの唄	1914	30.2	70	チューリップ	1932	98.3	114	港	1896	26.3
27	鐘の鳴る丘	1947	47.4	71	つき	1910	85.9	115	港が見える丘	1947	22.7
28	かもめの水兵さん	1937	85.0	72	月の砂漠	1923	69.9	116	虫の声	1910	87.2
29	かわいい魚屋さん	1937	71.0	73	鉄道唱歌	1900	41.2	117	村まつり	1912	68.4
30	紀元節	1888	10.1	74	てるてるぼうず	1923	92.6	118	もみじ	1911	88.8
31	汽車	1912	60.4	75	同期の桜	1944	54.6	119	山小屋の灯	1947	24.6
32	北上夜曲	1961	27.7	76	東京音頭	1933	66.1	120	夕焼小焼	1923	92.7
33	金魚の昼寝	1919	43.8	77	東京行進曲	1929	25.4	121	雪	1910	93.3
34	銀座カンカン娘	1949	60.1	78	東京のバスガール	1957	32.8	122	湯島の白梅	1942	25.2
35	金太郎	1900	84.0	79	東京ラプソディー	1936	49.3	123	揺籃のうた	1921	54.7
36	くつがなる	1919	81.8	80	ドレミの歌	1965	98.4	124	喜びも悲しみも幾年月	1957	43.4
37	ゲイシャ・ワルツ	1952	36.4	81	トロイカ	1953	58.7	125	ラバウル小唄	1940	37.5
38	コイノボリ	1931	94.0	82	どんぐりころころ	1921	98.7	126	旅愁	1907	56.9
39	鯉のぼり	1913	64.3	83	仲よし小道	1939	50.8	127	りんごの歌	1946	83.2
40	高原列車は行く	1954	36.5	84	夏の思い出	1959	82.4	128	リンゴのひとりごと	1939	37.8
41	荒城の月	1901	84.0	85	夏は来ぬ	1896	46.0	129	露営の歌	1937	46.8
42	黄金むし	1923	71.1	86	七つの子	1921	89.1	130	ローレライ	1909	33.7
43	故郷の空	1888	56.3	87	庭の千草	1984	15.2				
44	故郷の廃家	1907	17.0	88	野ばら	1909	55.4				

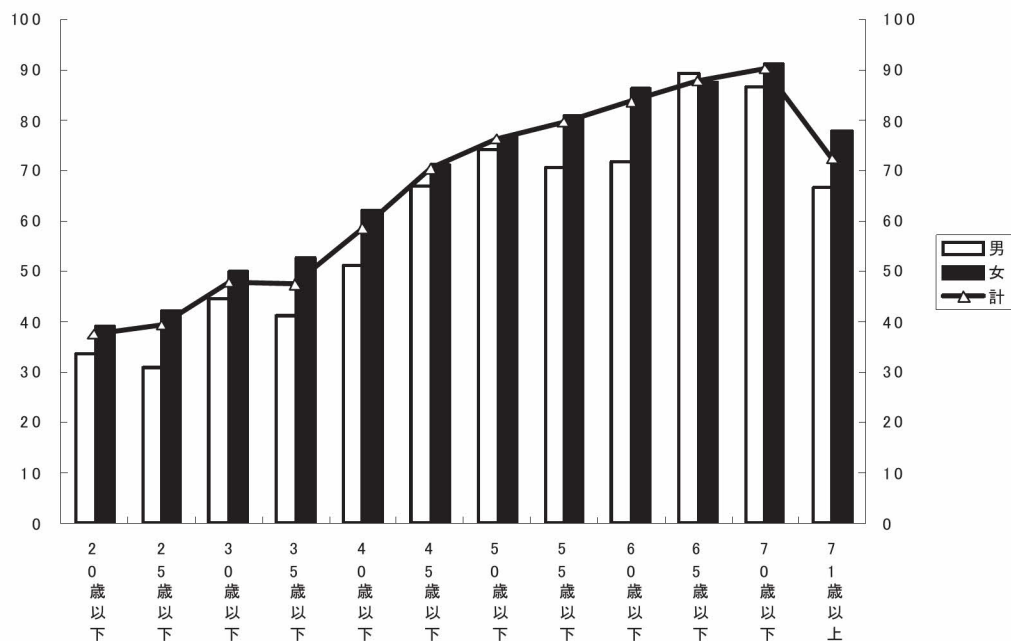
Ⅲ 集計結果の分析と考察

ここでは集計結果に基づいて、年齢層別得点、男女別得点、属性別得点についてグループ間の平均得点の差について、歌の認知度について分析を行うこととする。

1 年齢層別・男女別得点

年齢と平均得点との相関係数は、男0.63、女0.75、全体0.72となり、男女とも年齢が高くなるとともに得点も上昇していることが示されている。男女別平均得点の検定では、F検定の結果は $f(851,299) = 1.01, ns$ で等分散となり、T検定の結果は $t(1150) = 10.08, p < .05$ で有意であった。

<図1> 年齢層別平均得点



<図1>によると、70歳以下までは年齢とともに得点は高くなっており、71歳以上は低くなっている。71歳以上の人数は22名と各年齢層の中ではもっとも少なく、そのうち18人は【その他】に属しており、標準偏差は26.91と他の年齢層に比べて最も高く、年齢からも「覚えている人」と「忘れてしまった」人が混在していることが推察できる。前述した最高齢の90歳男(【その他】・得点36.5)もここに入っている。61歳以上65歳以下の年齢層だけは、男の方が高くなっている。

高齢者の歌はどれほど知られているか？

<表 5> 61歳 ～ 65歳の属性と得点

属 性	性別	人数	平均得点	最高得点	最低得点	標準偏差
A 特別養護老人ホーム職員 デイサービスセンター職員	男	0				
	女	2	99.6	99.6	99.6	0.00
	計	2	99.6	99.6	99.6	0.00
B 介護福祉士養成施設学生 ホームヘルパー 2 級養成講習受講者	男	5	93.5	99.2	86.9	5.26
	女	30	88.4	100.0	35.0	12.72
	計	35	89.1	100.0	35.0	12.02
C その他 (老人大学受講者・介護系以外の学生・学生の家族など)	男	3	82.6	95.0	69.2	12.91
	女	4	74.7	94.6	42.3	24.62
	計	7	78.1	95.0	42.3	19.39
合 計	男	8	89.4	99.2	69.2	9.76
	女	36	87.5	100.0	35.0	14.62
	計	44	87.8	87.8	100.0	13.78

この年齢層では、男 8 名、女36名の計44名のうち、35名が介護福祉士養成施設学生またはホームヘルパー 2 級養成講習受講者である。老人ホーム職員（当時）の 2 人の女はどちらも99.6という得点であり、これを除くと、男が 8 名と少なく、内 5 名はホームヘルパー養成講習生であり、他も老人大学の受講者などでいわゆる「元気老人」であることが推察される。

2 属性別得点

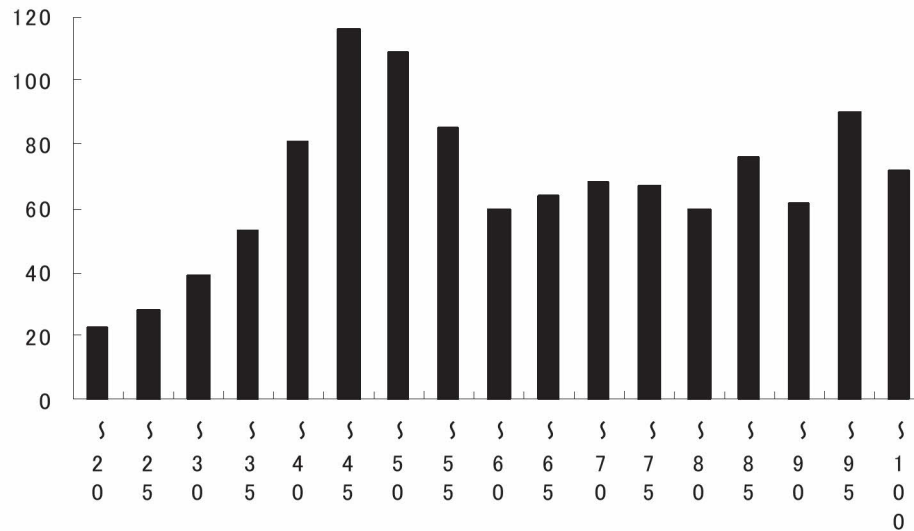
<表 6> 属性別得点

属 性	性別	人数	平均得点	最高得点	最低得点	標準偏差
A 特別養護老人ホーム職員 デイサービスセンター職員	男	21	67.2	96.5	34.6	15.84
	女	51	76.9	100.0	31.5	21.15
	計	72	74.0	100.0	31.5	20.13
B 介護福祉士養成施設学生 ホームヘルパー 2 級養成講習受講者	男	164	50.4	99.2	13.8	21.21
	女	559	68.7	100.0	19.6	20.25
	計	723	64.5	100.0	13.8	21.84
C その他 (老人大学受講者・介護系以外の学生・学生の家族など)	男	115	46.6	98.5	8.5	21.16
	女	242	53.0	99.6	13.5	19.79
	計	357	50.9	99.6	8.5	20.43
合 計	男	300	50.1	99.2	8.5	21.40
	女	852	64.7	100.0	13.5	21.55
	計	1152	60.9	100.0	8.5	22.43

調査対象者の属性別において、平均得点はA→B→Cグループの順に低くなっている。検定結果は、AとBグループでは $F(722,71)=1.18, ns$ 、 $t(88)=-3.7, p<.05$ であり、A Bグループ（高齢者福祉に関わっているグループ）とCグループ（その他）では $F(795,357)=1.14, ns$ 、 $t(729)=10.8, p<.05$ となり、何れも 5 %で有意であった。

3 平均得点グループ別年齢

<図 2> 平均得点別グループ



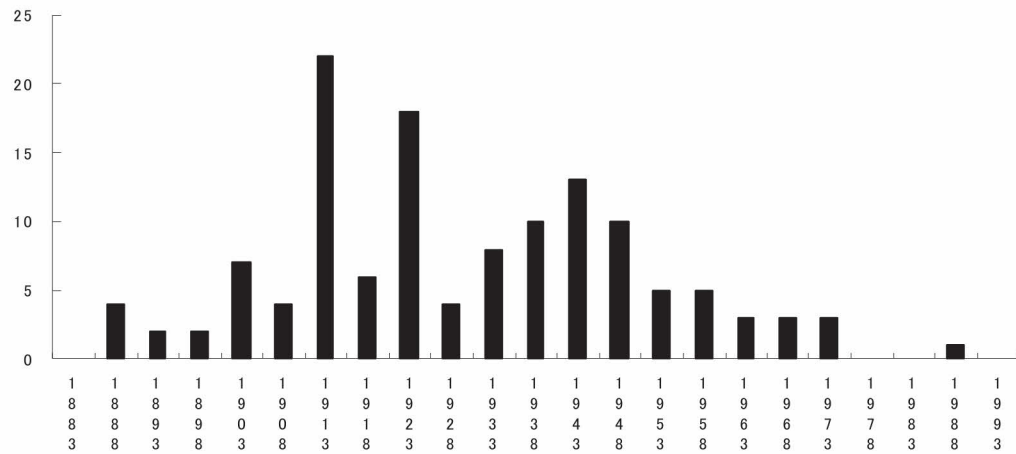
<図 2> は、全調査対象者の得点を20点以下から100点まで5点毎に分割し、それぞれの得点層にいる人数を表したものである。低得点グループと高得点グループの平均年齢を比較するため、中央値58.3で、上位グループと下位グループに2分した。

上位グループの得点範囲は58.5～100、下位グループでは8.5～58.1である。男女別人数は、全体では男300名(26.0%)・女852名(74.0%)であるが、上位グループでは男95名(16.5%)・女481名(83.5%)、下位グループでは男205名(35.6%)・女371名(64.4%)と、下位グループの方が男の構成割合が高くなっている。平均年齢は、上位グループでは49.4歳(標準偏差12.1)、下位グループでは30.0歳(標準偏差9.5)と約20歳の開きが見られる。検定の結果は、 $F(575,575)=1.51, <.05$ 、 $t(1104)=30.7, p<.01$ となり有意であった。

高齢者の歌はどれほど知られているか？

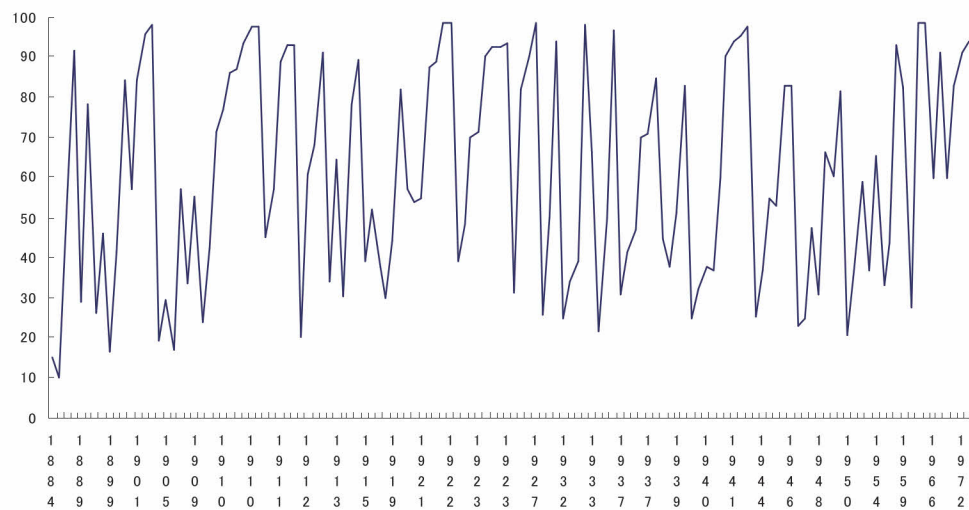
4 歌の認知度

<図 3> 発表年別曲数



<図 3> は、歌が発表された年代における曲数を示したものである。1909(明治42)～1913(大正2)年の間に発表された歌がもっとも多く22曲、次に1919(大正8)～1923(大正12)年の18曲、続いて1939(昭和14)～1943(昭和18)年の13曲となっている。130曲の内、1945(昭和20)年の終戦までに発表されている曲はあわせて102曲で、全体の78%を占めている。

<図 4> 発表年代順別認知度



高齢者の歌はどれほど知られているか？

<図4>は、130曲を発表年順に並べ、それぞれの歌の認知度を表したものである。1958年以降では、【北上夜曲】(1961年・27.7%)を除いて50%以上の認知度となっている。しかし、それ以前は、発表年に関係なく認知度は高低がある。発表年と認知度とは相関していない(相関係数0.02)ということができる。すなわち、歌によっては発表年に関係なくよく知られている、歌われているものと、そうでないものがあるということである。

この理由の一つとして学校における音楽教育があると考えられる。1989(平成元)年の小学校音楽科学習指導要領では、今回の調査で使用した曲のうち、次の曲が共通教材としてあげられている。第1学年【うみ】【かたつむり】【日の丸】、第2学年【春が来た】【虫の声】【夕やけ小やけ】、第3学年【春の小川】【ふじ山】、第4学年【さくらさくら】【まきばの朝】【もみじ】、第5学年【こいのぼり】【冬げしき】、第6学年【おぼろ月夜】【ふるさと】である。また、鑑賞曲として第5学年【荒城の月】【箱根八里】、第6学年【赤とんぼ】がある。³⁾

題名は発表当時とは異なっているものもある。調査時においても【故郷】はわからないが【ふるさと】と言い替えると思出した人もいた。

これらの歌のなかで、全体の認知度が60%以下であるのは、【日の丸の歌】(56.9%)【冬景色】(33.8%)【牧場の朝】(39.1%)の3曲である。この値の意味については、他の機会に考察することとしたい。その他の曲については、やはり歌いやすい、親しみやすい曲であるということが認知度を高めていると推察できる。このことについても他の機会に考察したい。

また、25歳以下で得点が80以上という人が3人いる。一人は介護福祉士養成施設の学生、後の二人は一般の学生である。この人たちにたずねてみたところ、「家でいつも歌っている」「小さいときにお母さんが子守歌のように歌ってくれていた」「おばあちゃん子でいつも一緒に歌っていた」という答えが返ってきた。歌い継がれるということは家庭内でのこのような環境も一因であると思われる。

IV おわりに

集計結果の分析から、男女とも年齢が高くなるにつれて得点は高くなっていく。男女間では、男より女の方が有意に得点は高くなっている。属性別では高齢者福祉施設の職員の得点が最も高く、介護系の学生や講習生が続き、その他が最も低い。このことは日頃から高齢者に接している職員やそれを目指している人ということから当然といえよう。

しかし、高齢者とかかわりは、最初に述べたように個別にかかわらなくてはならないのであるが、職員は多忙でなかなか歌を通して個別に高齢者とかかわるという時間がない。

そこで考えられるのが、61歳～70歳の人材をボランティアとして活用することである。この年齢層の平均得点は85.5と全体より高く、各曲に対する認知度も全体より高い。

高齢者の歌はどれほど知られているか？

これから団塊の世代が60歳以上となり、退職者が急増していくなかにあって、この年齢層の人たちにも新しい生き方として高齢者とのかわりを得心していくことは急務であるとする。

参考・引用文献

呉竹英一編：「音楽療法の現場からおくる 歌の宝石箱 ～手遊び歌付～」：ドレミ楽譜出版社：1999
横田憲一郎：「教科書から消えた歌・童謡」：産経新聞社：2002
金田一晴彦：「童謡・唱歌の世界」：教育出版：1995
読売新聞文化部：「唱歌・童謡ものがたり」：岩波書店：1999
読売新聞文化部：「愛唱歌ものがたり」：岩波書店：2003
文部省：「小学校学習指導要領 音楽」：1989

注

- 1) 日本ダイバーショナルセラピー協会編：「全人ケアの実践」：朱鷺書房：2004. p15
- 2) 呉竹英一編：「歌の宝石箱」：ドレミ出版社：1999. “はじめに” より
- 3) 文部省：「小学校学習指導要領 音楽」：1989

高齢者の歌はどれほど知られているか？

資料①

「あの歌・この歌 130曲」 認知度・好感度アンケート

男・女 年齢 歳

【歌える（歌詞を見ながら・伴奏があれば歌えるでも可）→○・知っている程度（歌えないが聞いたことはある・題名だけは知っている程度）→△・知らない（全く知らない）→×】の印を記入欄に入れてください。次にあなたの好きな歌10曲を選んで番号を○で囲んでください。年齢・性別も忘れずに記入してください。

No.	曲 名	記入欄
1	青い山脈	
2	青い目の人形	
3	赤い靴	
4	赤とんぼ	
5	憧れのハワイ航路	
6	あの子はたあれ	
7	あめふり	
8	異国の丘	
9	一月一日	
10	上を向いて歩こう	
11	うさぎとかめ	
12	美しき天然	
13	うみ	
14	浦島太郎	
15	うれしいひなまつり	
16	おさるのかごや	
17	お正月	
18	お富さん	
19	おぼろ月夜	
20	お山の杉の子	
21	かあさんの歌	
22	案山子	
23	影を慕いて	
24	肩たたき	
25	かたつむり	
26	カチューシャの唄	
27	鐘の鳴る丘	
28	かもめの水兵さん	
29	かわいい魚屋さん	
30	紀元節	
31	汽車	
32	北上夜曲	
33	金魚の昼寝	
34	銀座カンカン娘	
35	金太郎	
36	くつがなる	
37	ゲイシャ・ワルツ	
38	コイノボリ	
39	鯉のぼり	
40	高原列車は行く	
41	荒城の月	
42	黄金むし	
43	故郷の空	
44	故郷の廃家	

No.	曲 名	記入欄
45	国境の町	
46	湖畔の宿	
47	金色夜叉	
48	ゴンドラの歌	
49	さくら	
50	桜井の訣別	
51	里の秋	
52	四季の歌	
53	しゃぼん玉	
54	十五夜お月さん	
55	酋長の娘	
56	証城寺の狸囃子	
57	知床旅情	
58	白い花の咲く頃	
59	人生の並木道	
60	すみだ川	
61	背くらべ	
62	瀬戸の花嫁	
63	船頭小唄	
64	蘇州夜曲	
65	大黒様	
66	たきび	
67	たこのうた	
68	たなばたさま	
69	旅の夜風	
70	チューリップ	
71	つき	
72	月の砂漠	
73	鉄道唱歌	
74	てるてるぼうず	
75	同期の桜	
76	東京音頭	
77	東京行進曲	
78	東京のバスガール	
79	東京ラブソフィー	
80	ドレミの歌	
81	トロイカ	
82	どんぐりころころ	
83	仲よし小道	
84	夏の思い出	
85	夏は来ぬ	
86	七つの子	
87	庭の千草	
88	野ばら	

No.	曲 名	記入欄
89	箱根八里	
90	鳩	
91	花火	
92	花嫁人形	
93	埴生の宿	
94	浜千鳥	
95	浜辺の歌	
96	バラが咲いた	
97	春が来た	
98	春の小川	
99	春よ来い	
100	日の丸の旗	
101	富士山	
102	冬景色	
103	冬の夜	
104	故郷	
105	星影のワルツ	
106	星の界	
107	ほたるこい	
108	蛍	
109	牧場の朝	
110	真白き富士の嶺	
111	鞠と殿さま	
112	みかんの花咲く丘	
113	水戸黄門	
114	港	
115	港が見える丘	
116	虫の声	
117	村まつり	
118	もみじ	
119	山小屋の灯	
120	夕焼小焼	
121	雪	
122	湯島の白梅	
123	揺籃のうた	
124	喜びも悲しみも幾年月	
125	ラバウル小唄	
126	旅愁	
127	りんごの歌	
128	リンゴのひとりごと	
129	露営の歌	
130	ローレライ	

出典「歌の宝石箱」呉竹英一編
：ドレミ楽譜出版社:1999

高齢者の歌はどれほど知られているか？

資料②

- 1 青い山脈（若く明るい歌声に雪崩は消える花も咲く青い山脈雪割桜今日もわれらの夢を呼ぶ）
- 2 青い目の人形（青い目をしたお人形はアメリカ生まれのセルロイド日本の港についたとき …）
- 3 赤い靴（赤い靴はいてた女の子異人さんに連れられて行っちゃった）
- 4 赤とんぼ（夕焼け小やけの赤とんぼ負われて見たのはいつの日か）
- 5 憧れのハワイ航路（晴れた空そよぐ風港出船のドラの音愉し別れテープを笑顔で切れば …）
- 6 あの子はたあれ（あの子はたあれ誰でしょねなんなんなつめの花の下お人形さんと遊んで …）
- 7 あめふり（雨雨降れ降れ母さんが蛇の目でお迎えうれしいなピッチピッチチャップチャップランラン）
- 8 異国の丘（今日も暮れゆく異国の丘に友よ辛かろう切なかる我慢だ待ってろ嵐が過ぎりゃ …）
- 9 一月一日（年のはじめの例とて終わりなき世のめでたさを松竹たてて門ごとに祝う今日こそ楽しけれ）
- 10 上を向いて歩こう（上を向いて歩こう涙がこぼれないように思い出す春の日ひとりぼっちの夜）
- 11 うさぎとかめ（もしもしかめよかめさんよ世界のうちにおまえほど歩みののろいものはない …）
- 12 美しき天然（空にさえずる鳥の声峯より落ちつる滝の音大波小波髣髴と響き絶えぬ海の音 …）
- 13 うみ（海は広いな大きいな月がのぼるし日が沈む）
- 14 浦島太郎（昔々浦島は助けた亀に連れられて竜宮城へ来てみれば絵にもかけない美しさ）
- 15 うれしいひなまつり（灯りをつけましょぼんぼりにお花をあげましょ桃の花五人囃子の笛太鼓 …）
- 16 おさるのかごや（えっさえっさえっさばいさっさお猿のかごやだばいさっさ日暮れの山道細い道 …）
- 17 お正月（もういくつねるとお正月お正月にはたこあげてこまをまわしてあそびましょ …）
- 18 お富さん（粋な黒髪見越しの松に仇な姿の洗い髪死んだはずだよお富さん生きていたとは …）
- 19 おぼろ月夜（菜の花畠に入り日薄れ見渡す山の端霞ふかし春風そよ吹く空を見れば …）
- 20 お山の杉の子（昔々のその昔椎の木林のすぐそばに小さなお山があったとさあったとさ …）
- 21 かあさんの歌（母さんは夜なべをして手袋編んでくれた木枯らし吹いちゃ冷たかろうて …）
- 22 案山子（山田の中の一本足の案山子天気の良いのに蓑笠つけて朝から晩までただ立ち通し …）
- 23 影を慕いて（まぼろしの影を慕いて雨に日に月にやるせぬ我が想いつつめば燃ゆる胸の火に …）
- 24 肩たたき（母さんお肩をたたきましようタントントントントントン母さん白髪がありますね …）
- 25 かたつむり（でんでん虫かたつむりおまえの頭はどこにある角出せ槍出せ頭出せ）
- 26 カチューシャの唄（カチューシャかわいや別れの辛させめてあわ雪とけぬ間と神に願いをララ …）
- 27 鐘の鳴る丘（緑の丘の赤い屋根とんがり帽子の時計台鐘が鳴りますキンコンカン …）
- 28 かもめの水兵さん（かもめの水兵さんならんだ水兵さん白い帽子白いシャツ白い服 …）
- 29 かわいい魚屋さん（かわいいかわいい魚屋さんままごと遊びの魚屋さんこんちはお魚いかがでしょ …）
- 30 紀元節（雲にそびゆる高千穂の高根おろしに草木もなびきふしけん大御代を仰ぐ今日こそ楽しけれ）
- 31 汽車（今は山中今は浜今は鉄橋渡るぞと思う間もなくトンネルの闇を通して広野原）
- 32 北上夜曲（匂い優しい白百合の濡れているよなあお瞳思い出すのは思い出すのは北上河原の月の夜）
- 33 金魚の屋敷（赤いべべ着た可愛い金魚おめめをさませばご馳走するぞ）
- 34 銀座カンカン娘（あの子かわいやカンカン娘赤いブラウスサンダルはいて誰を待つやら銀座の街角 …）
- 35 金太郎（まさかりかついで金太郎熊にまたがりお馬のけいこはいしいどうどうはいどうどう …）
- 36 くつがなる（お手手つないで野道をゆけばみんなかわいい小鳥になって歌をうたえば靴が鳴る …）
- 37 ゲイシャ・ワルツ（あなたのリードで島田もゆれるチーク・ダンスの悩ましき …）
- 38 コイノボリ（屋根より高い鯉のぼり大きい真鯉はお父様小さい緋鯉は子どもたち面白そうに泳いでる）
- 39 鯉のぼり（いらかの波と雲の波重なる波の中空を橘薫る朝風に高く泳ぐや鯉のぼり）
- 40 高原列車は行く（汽車の窓からハンケチ振れば牧場の乙女が花束投げる明るい青空白樺林 …）
- 41 荒城の月（春高樓の花の宴めぐる杯かげさして千代の松が枝わけ出でし …）
- 42 黄金むし（黄金むしは金持ちだかねぐら建てた倉建てた船屋で水船買ってきた）
- 43 故郷の空（夕空はれて秋風ふきつきかけ落ちて鈴虫なく思えば遠し故郷の空 …）
- 44 故郷の廃家（幾年ふるさと来てみれば咲く花鳴く鳥そよぐ風門辺の小川のささやきも …）
- 45 国境の町（そりの鈴さえ寂しく響く雪の曠野よ町の火よひとつ山越しゃ他国の星が …）

高齢者の歌はどれほど知られているか？

- 46 湖畔の宿 (山の淋しい湖にひとり来たのも悲しい心胸の痛みにたえかねて昨日の夢と焚き捨てる …)
47 金色夜叉 (熱海の海岸散歩する寛一お宮の二人連れ共に歩むも今日限り共に語るも今日限り)
48 ゴンドラの歌 (いのち短し恋せよ乙女紅き唇あせぬ間に熱き血潮冷えぬ間に明日の月日はないものを)
49 さくら (桜桜弥生の空は見渡すかぎり霞か雲か匂いぞ出ずるいざやいざや見にゆかん)
50 桜井の訣別 (青葉茂れる桜井の里のわたりの夕まぐれ木の下陰に駒とめて忍ぶ鎧の袖の上に …)
51 里の秋 (静かな静かな里の秋お背戸に木の実の落ちる夜はああ母さんとただ二人栗の実煮てます囲炉裏端)
52 四季の歌 (春を愛する人は心清き人すみれの花のような僕の友達)
53 シャボン玉 (シャボン玉とんだ屋根までとんだ屋根までとんでこわれて消えた)
54 十五夜お月さん (十五夜お月さんごきげんさん婆やお暇とりました)
55 酋長の娘 (私のラバさん酋長の娘色は黒いか南洋じゃ美人)
56 証城寺の狸囃子 (しょしょ証城寺証城寺の庭はツツ月夜だみんな出て来い来い来い …)
57 知床旅情 (知床の岬にハマナスの咲く頃思い出しておくれ俺たちのことを飲んで騒いで丘に登れば …)
58 白い花の咲く頃 (白い花が咲いてたふるさとの遠い夢の日さよならと云ったら …)
59 人生の並木道 (泣くな妹よ妹よ泣くな泣けば幼い二人して故郷を捨てた甲斐がない)
60 すみだ川 (銀杏がえしに黒じゅすかけて泣いて別れた隅田川思い出します観音様の秋の日暮れの鐘の声)
61 背くらべ (柱のきずはおとしの五月五日の背比べ粽食べ食べ兄さんが計ってくれた背のたけ …)
62 瀬戸の花嫁 (瀬戸は日暮れて夕波小波あなたの島へお嫁にゆくの若いと誰もが心配するけれど …)
63 船頭小唄 (おれは河原の枯れすすき同じおまえも枯れすすきどうせ二人はこの世では …)
64 蘇州夜曲 (君がみ胸に抱かれて聞くは夢の船唄鳥の歌水の蘇州の花散る春を惜しむか柳がすすり泣く)
65 大黒様 (おおきな袋を肩にかけ大黒様が来かかるところに因幡の白うさぎ皮をむかれて赤裸)
66 たきび (垣根の垣根の曲がり角焚き火だ焚き火だ落ち葉焚き「あたろうか」「あたろうよ」 …)
67 たこのうた (たこたこあがれ風よく受けて雲まであがれ天まであがれ)
68 たなばたさま (笹の葉さらさら軒端にゆれるお星様きらきら金銀砂子)
69 旅の夜風 (花も嵐も踏み越えて行くが男の生きる道泣いてくれるなほろほろ鳥よ月の比叡を独り行く)
70 チューリップ (咲いた咲いたチューリップの花が並んだ並んだ赤白黄色どの花見てもきれいだな)
71 つき (出た出た月が丸い丸いまん丸い盆のような月が)
72 月の砂漠 (月の砂漠をはるばると旅のらくだがゆきました金と銀との鞍おいて二つ並んでゆきました)
73 鉄道唱歌 (汽笛一声新橋をはや我が汽車は離れたり愛宕の山に入り残る月を旅路の友として)
74 てるてるぼうず (てるてる坊主てる坊主明日天気にしておくれいつかの夢の空のよに …)
75 同期の桜 (貴様と俺とは同期の桜おなじ兵学校の庭に咲く咲いた花なら散るのは覚悟 …)
76 東京音頭 (ハア踊り踊るならチョイト東京音頭ヨイヨイ花の都の花の都の真中でサテヤートナソレ …)
77 東京行進曲 (昔恋しい銀座の柳仇な年増を誰が知るジャズで踊ってリキユルで更けて …)
78 東京のバスガール (若い希望も恋もあるビルの街から山の手へ紺の制服身につけて …)
79 東京ラブソフィー (花咲き花散る宵も銀座の柳の下で待つは君ひとり君ひとり …)
80 ドレミの歌 (ドはドーナツのドレはレモンのレミはみんなのミファはファイトのファソは青い空 …)
81 トロイカ (雪の白樺並木夕陽が映える走れトロイカほがらかに鈴の音高く)
82 どんぐりころころ (どんぐりころころどんぶりこお池にはまってさあ大変泥鰌が出てきて今日は …)
83 仲よし小道 (仲よし小道はどこの道いつも学校へみよちゃんとランドセル背負って元気よく …)
84 夏の思い出 (夏がくれば思い出すはるかな尾瀬遠い空霧の中に浮かびくるやさしい影野の小径 …)
85 夏は来ぬ (卯の花のにおう垣根にホトギス早も来なきて忍び音もらす夏は来ぬ)
86 七つの子 (烏なぜ啼くの烏は山にかわいい七つの子があるからよ)
87 庭の千草 (庭の千草も虫の音も枯れてさびしくなりにけりああ白菊ああ白菊ひとりおくれて咲きにけり)
88 野ばら (童は見たり野なかの薔薇清らに咲けるその色愛でつ飽かずなかむ紅におう野中の薔薇)
89 箱根八里 (箱根の山は天下の険函谷関も物ならず万丈の山千仞の谷 …)
90 鳩 (ぽっぽっぽ鳩ぽっぽ豆がほしいかそらやるぞみんなて仲よく食べに来い)
91 花火 (どんと鳴った花火だきれいだな空いっぱいひろがったしだれ柳がひろがった)
92 花嫁人形 (金襴緞子の帯しめながら花嫁御寮はなぜ泣くのだろ)

高齢者の歌はどれほど知られているか？

- 93 埴生の宿（はにゅうの宿もわが宿玉の装いうらやまじのどかなりや春の空花は主鳥は友 …）
94 浜千鳥（青い月夜の浜辺には親をさがして鳴く鳥が波の国から生まれ出る濡れた翼の銀の色）
95 浜辺の歌（あした浜辺をさまよえば昔のことをぞ忍ばるる風の音よ雲のさまよ寄する波も貝の色も）
96 バラが咲いた（バラが咲いたバラが咲いた真っ赤なバラがさびしかったぼくの庭にバラが咲いた …）
97 春が来た（春が来た春が来たどこにきた山にきた里にきた野にも来た）
98 春の小川（春の小川はさらさら流る岸のすみれやれんげの花に匂いめでたく色美しく …）
99 春よ来い（春よ来い早く来い歩き始めたみいちゃんが赤いはなおのじょじょはいて …）
100 日の丸の旗（白地に赤く日の丸染めてあうつくしや日本の旗は）
101 富士山（頭を雲の上に出し四方の山を見おろして雷さまを下に聞く富士は日本一の山）
102 冬景色（狭霧消ゆる湊江の舟に白し朝の霜ただ水鳥の声はしていまだ覚めず岸の家）
103 冬の夜（ともしび近く衣縫う母は春の遊びの楽しさ語る居並ぶ子供は指を折りつつ …）
104 故郷（兎追いしかの山小ぶな釣りしかの川夢は今も巡りて忘れがたきふさと）
105 星影のワルツ（別れることはつらいけど仕方がないんだ君のため別れに星影のワルツを歌おう …）
106 星の界（月なきみ空にきらめく光嗚呼その星影希望のすがた人智は果てなし無窮の遠に …）
107 ほたるこい（ほうほう蛍こいあっちの水は苦いぞこっちの水は甘いぞほうほう蛍こい）
108 蛍（蛍の宿は川ばた柳柳おぼろに夕やみ寄せて川のめだかが夢見る頃はほほ蛍が灯をとます）
109 牧場の朝（ただ一面に立ちこめた牧場の朝の霧の海ボラ並木のうっすりと黒い底から勇ましく …）
110 真白き富士の嶺（ま白き富士の嶺緑の江の島仰ぎ見るも今は涙帰らぬ十二の雄々しきみ魂に …）
111 鞠と殿さま（てんてんてん鞠てん手鞠てんてん手鞠の手がそれでどこからどこまでとんでった …）
112 みかんの花咲く丘（みかんの花が咲いている思い出の道丘の道はるかに見える青い海 …）
113 水戸黄門（人生樂ありや苦もあるさ涙の後には虹も出る歩いて行くんだしっかりと …）
114 港（空も港も夜は晴れて月に数ます船の影端艇の通いにぎやかに寄せくる波も黄金なり）
115 港が見える丘（あなたと二人で来た丘は港が見える丘色あせた桜ただ一つ淋しく咲いていた …）
116 虫の声（あれ松虫が鳴いているチンチロチンチロチンチロリンあれ鈴虫も鳴き出した …）
117 村まつり（村の鎮守の神様の今日はめでたい御祭日ドンドンヒャララドンヒャララ …）
118 もみじ（秋の夕日に照る山紅葉濃いも薄いも数ある中に松を彩る楓や蔦は山の麓の裾模様）
119 山小屋の灯（たそがれの灯火はほのかに点りて懐かしき山小舎は麓の小径よ想い出の窓により …）
120 夕焼小焼（夕焼小焼で日が暮れて山のお寺の鐘なるお手々つないで皆帰ろう鳥と一緒に帰りましょう）
121 雪（雪やこんこ霰やこんこ降っては振ってはずんずん積もる山も野原も綿帽子かぶり …）
122 湯島の白梅（湯島通れば思い出すお蔦主税の心意気知るや白梅玉垣に残る二人の影法師）
123 揺籃のうた（揺りかごの歌をカナリヤが歌うよねんねこねんねこねんねこよ）
124 喜びも悲しみも幾年月（おいら岬の灯台守は妻と二人で沖行く船の無事を祈って灯をかざす灯をかざす）
125 ラバウル小唄（さらばラバウルよ又来るまではしばし別れの涙がにじむ恋し懐かしあの島見れば …）
126 旅愁（更け行く秋の夜旅の空のわびしき思いにひとり悩む恋しやふるさと懐かし父母 …）
127 リンゴの歌（赤いリンゴに唇よせて黙って見ている青い空リンゴは何にも云わないけれど …）
128 リンゴのひとりごと（私は真っ赤なリンゴですお国は寒い北の国リンゴ畑の晴れた日に …）
129 露営の歌（勝ってくるぞと勇ましく誓って故郷を出たからは手柄たてずに死なうか …）
130 ローレライ（なじかは知らねど心わびて昔の伝説はそぞろ身にしむ寥しく暮れゆくラインの流れ …）

出典 呉竹英一編：「歌の宝石箱」～手あそび歌付～：ドレミ楽譜出版社：1999